

「第1回宇都宮市都市観光研究会」議事録

1 日時・場所

平成15年12月2日(火) 午後1時30分から午後3時30分
宇都宮市総合福祉センター 9A会議室

2 出席者

【委員】

・森本章倫，笠原正人，大塚恭子，高橋信夫

【市職員】

・商工部次長，商業観光課長，観光コンベンション協会事務局長，事務局職員

3 議事

- (1) 都市観光研究会の設置(案)について
- (2) 会長等の選出について
- (3) 研究会の進め方について
- (4) 本市観光の現状分析について
- (5) 重点施策の選定方針について

4 会議経過

- (1) 開会
- (2) あいさつ(商工部次長)
- (3) 研究会委員，事務局等の紹介
- (4) 研究会の設置
 - ・事務局で設置要領案を説明，会議の公開と併せて承認された。
- (5) 会長等の選出
 - ・委員の互選により，森本委員を会長に，笠原委員を副会長に選出した。
- (6) 会長あいさつ
- (7) 研究会の進め方について
 - ・開催日程と検討内容を協議し，最終的に市長に提言することを確認した。
- (8) 本市観光の現状分析について
 - ・下記に要旨を記載
- (9) 重点施策の選定方針について
 - ・下記に要旨を記載
- (10) 次回開催日の設定
 - ・平成16年1月8日とする。

5 傍聴者

1名

6 主な意見，質問等（要旨）

（1）本市観光の現状分析

事務局 【資料説明】

以下の調査，試行事業等の結果概要の説明，分析等

- ・ 都市型観光顧客満足度調査（H14.7～8 実施）
- ・ 首都圏住民の宇都宮市に対するイメージ調査（H14.11 実施）
- ・ 広域観光連携に関する意向調査（H14.12 実施）
- ・ 広域観光バス事業「宇都宮体験号」（H15.7～11 実施） など

【協議経過】

座長 最初に各委員から，宇都宮市の観光に関して日頃から感じていることをお話しいただければと思います。

委員 正直なところ，宇都宮は文化的な資源も乏しくあまりぱっとした街ではないと思っていた。

しかしながら，「餃子」をきっかけにその認識は変わった。現状としては，観光は二の次で「餃子」を目的に本市を訪れる人が大部分だと思うが，来てみれば意外に宇都宮は良いところだと感じている人が多いのではないか。

「食」がテーマというのはリピーターにもつながりやすく，また，少し郊外に出ればすぐに自然に触れられる本市の環境は素晴らしい。

課題としては，車で訪れる方の駐車場をどうするのか，例えば，郊外に自動車を停めた場合には，街中へのアクセスをどうするのか？

本市の餃子店は広く市内に点在しているが，集約させて人が集まる賑わいを創出することはできないのか。

委員 違う視点だが，子どもたちに郷土愛を育む姿勢が足りないのではないか。子ども心に培った郷土愛は，将来的な観光振興に結びついていくと思う。

また，市内が殺風景ではないか。大通りにバナーをつけるなど，賑わいの創出が必要だ。

お土産についても一度に買える場所がないのは問題。

駐車場については、イベント時に中央小学校の校庭を開放するといった方策も有効ではないか。

北西部の観光については、ろまんちっく村を基点に観光ルートを組み立てていくことが効果的だと思う。

委員 都市観光の考え方について資料を見させていただいた。商業者として様々な取り組みをしてきたが、こうした視点から改めて見直すことは意義があると感じている。

商店街のイベントでは、「餃子、カクテル、ジャズ」のまちということで、必ずジャズを組合わせてやっているが、事務局の用意したデータによれば、まだまだ「ジャズのまち」としての認知度が低いことに驚いている。

商店街、中心街の作り方、郊外から来た方の受け入れ方など更に工夫が必要だ。共通駐車券の問題や大型バスの受入場所など課題は多い。

座長 どうすれば宇都宮が都市観光でうまくいくのか？ 次の3つの視点が必要ではないか。

点から面へ

今まで、商工関係者は自分たちがどう良くなるかという「点」で勝負していたように思う。関係者が協力し合い、エリア全体が良くなるという「面」で考えていく必要がある。

アクセスの問題

皆さんからも多くの指摘があったように、交通アクセスをどのようにデザインしていくかが重要である。

内容の差別化

都市間の競争が厳しくなっている中、宇都宮は何をもって戦っていくのか。

例えば、宇都宮餃子が一躍有名になったが、他所から来た人に「どうして餃子なの？」と聞かれた時、すぐに答えられるだろうか？

その歴史性や市民性を掘下げるなど、もう少し深みを持たせるための手法が必要ではないか。

委員 「名物にうまいものなし」という例えがありますが、「食」については質が落ちてはダメです。

行列でいつも待たされることや、わかりづらいといった立地など、まだまだ改善すべき点がある。

座長 確かに行列ができていと嫌だけど、行列がないところには入らないという面もありませんか。

委員 回転の早さというのは重要でしょうね。

座長 全国どこでも食べられるとか、店が大きくなっていつでも待たずに食べられるとなると、それはそれで付加価値が低くなるという側面がある。
いずれにしても、都市観光を考えていく上で「食」は柱になる。いいところを伸ばしていく必要がある。

委員 餃子に関していえば、これだけ全国的に評価されているのに、市民が自信をもっていないところがある。
若い人はもっとお洒落なものがいいのかもしれないが、ジャズだ、カクテルだ、豚しゃぶだといろいろと出てきているけれど、もっと一つのことに自信を持つべきではないか。

委員 餃子についていえば、食べ比べできる環境が必要だ。各店舗の移動距離が長いと大変。もう少しまとまっていると良いのと思う。

委員 団体バスで来て、一箇所でサアッと帰られてしまうより、街の中を回遊してもらおう仕組みが必要だ。

委員 河川、特に田川の活用がもっとできないだろうか。川沿いの餃子街というのも楽しいシチュエーションだと思う。

座長 昔、田川沿いには屋台があったが、復活させるという話はないですか。

事務局 要望としてはかなり聞いている。しかしながら、屋台は一代に限り道路使用を認めるという制限があり、かなり難しいと思われる。

座長 用途を道路でなくしてしまえばいいんじゃないですか？

事務局 新しい発想として、3月頃に民地に屋台村ができるという話を聞いている。路上の屋台に比べ、水道や火気の使用ができるので、提供する料理の幅が広がるというメリットがある。

委員 田川を活用しない手はないと思う。

委員 川沿いを桜並木にして、桜の花びらが降る中でお酒を飲むなんていう風情

が街の中にあってもいいですね。

委員 釜川においても、屋台を一箇所に集めた場所があるが、だいぶ寂しくなっ
てしまった。川へのつながりをもっと工夫して活用しようという話もある。

座長 最近オープンカフェと言い換えて屋台的なものが流行っていますね。
道路空間といえども様々な活用方策がある。

委員 週末には県外からの人が多いですね。県外から車で来る人の流れ、地元
の人の流れをきちんと考える必要がありますよね。

委員 都心部にコイン駐車場が増えてきましたね。一箇所に集約させる場所が必
要ではないか。

郊外に滞留させて公共交通機関で運ぶといった工夫が必要。
まちなかの公共機関、学校の校庭利用も考えられる。

座長 今のお話しは、「フリンジパーキング」や「パークアンドライド」といった
考え方なのですが、車で行けるところと、そうでないところをきちんと分け
ましょうということが重要。

歩くところは楽しいですよ、という仕組みが大切。

一度は都心部から車を締め出してみる必要がある。ぜひ、これを前向きに
考えてほしい。

コイン駐車場が虫食い状態でできている現状は、都市観光の視点からみて
もよくない。

委員 確かに2台くらいの台数でパーキングができてしまうのはどうかと思う。
サンフランシスコでは、街の中心部に大きな地下駐車場がある。車を降り
て街をすぐに歩けるサイズで集約されており、とても良いまちのデザインだ
と感じた。

宇都宮においても、宇都宮城址の地下、郊外の新幹線の高架下などを活用
できないか。

また、観光地によっては、ワンコインでバスの送迎をしたり、ガイドが街
歩きの案内をしたりといろいろ工夫をしている。

座長 宇都宮市で検討している新交通システムの「LRT」だが、
今は「人を運ぶ手段」として論じられているわけだが、導入すれば日本で

初めての新しい乗り物であり、「L R T 自体が楽しいもの」と視点を変えるとこれが観光の目玉になる。

こうした他の分野も含めて、現在進められている施策を都市観光の視点から捉えなおし、うまく組み合わせるつないでいく必要がある。

委員 沖縄でも、以前は空港を降りたらホテルのバスで直行といったコースしか組めなかったが、那覇に新交通ができてからコースを自由に組めるようになった。沿線の地域に大きなメリットがあった。

座長 L R T を市民の通勤、通学の足から、都市観光の資源として捉えなおすような視点が必要である。

委員 週末は大通りを止めてしまうというのもある。
最近では国の許認可基準がかなり緩和されてきたので、週末の一定時間に限ってタクシー料金をワンコインにするといったことも可能だ。
週末は、競輪場の駐車場に車を停めてもらい、ワンコインタクシーで大通りまで送迎するといったことも可能だ。

委員 大通りを止めるという案は実際に検討されていますよね。
ただ、大通りの商店街では、車が入ってこなければお客様が来ないという不安が強い。

市民から盛り上げて夢を語っていくような動きが必要だ。
一つの絵が見えてくると、何か出来そうじゃないかという気持ちになってくるんじゃないだろうか。

座長 福井で実施したトランジットモールにおいても、当初は同じような不安から反対があった。しかし、実際にやってみると売上が伸びた。
こうしたことをきちんと伝え、合意形成を図っていくことが必要だ。

(2) 重点施策の選定方針

事務局 【資料説明】

- 観光振興の推進方策（案）の説明
- 観光施策に係る関連事業の動きについて
 - ・ 宇都宮市都心部グランドデザインについて
 - ・ 宇都宮城址の復元計画について など

【協議経過】

座長 事務局の説明を受けて、推進方策の枠組みがよいか、また、事業を推進していく上でのポイントなどについてご意見をいただきたい。

委員 都市型観光の概念をしっかりとさせる必要があると思う。

ソフト的なものでいえば「ジャズ」が本市の資源としてあり、私もモダンジャズが大好きであるが、街を歩いていてジャズという雰囲気がない。

以前、街めぐりを企画し、市内の施設をいくつも周ったが、ジャズを聴けたのは大谷資料館だけだった。

例えばこうしたせっかくの観光資源をどう活かしていけばよいのかがポイントになってくると思う。

特に「まちなか観光」をどのようにしていくかが重要だ。

座長 施策事業を体系付けしていくには、事務局資料のようにテーマ毎にまとめていく方法や、あるいは「食」や「エリア」といったいろいろな切り口が考えられると思いますが、どうでしょうか。

委員 事業を体系化していくことも必要だが、TMOとか、まちづくり推進機構とか様々な会議が行われており、「誰がまちづくりをやるのか？」というのがよくわからない。

横のつながりをどうするのか、誰が最初に動き出すのか、ボランティアとしてやる部分、仕事でやる部分・・・。

実際に行動に移していくのは大変なことだ。それをどうするのか。

座長 事業化にあたってのプロセスが見えてこない。
どれを、どの様に、どのタイミングでやっていくのか。
時間軸でこうしたことを考えていく必要がある。

もちろん、きちんとしたプランをまとめて、こう考えているのだと説明する責任はある。

それとともに、実現するための方法論をどのように組み立てていくのが大切だ。

いろんなことが、いろんなところで行われている。

プランの策定にあたっては、こうしたものを結びつける役割を果たしてほしい。1 + 1 = 2ではなく、1 + 1 = 3となるようなことがあると思う。

時間的な制約はあるが、こうしたものを関連付けて、このプランにはめ込んでいく。他で考えられている事業プランもこれにはめ込んでいく作業をしていくことで、中長期的な大きな指針となるプランを作ること可能だ。

時間も残り少なくなったので、最後にお 1 人ずつご意見ををお願いしたい。

委 員 テーマをどのように絞っていくかという話があった。
市の案に従って肉付けしていく方法と、自分達が独自のものを作っていく方法とあると思うが、時間的には肉付けしていく方が早いだろうし、そのようにしてはどうか。

委 員 ここにあがっている事業をすべてできれば素晴らしいと思うが、必ず阻害要因が出てくるはず。
例えば、先ほどの大通りの車を止めるといった話も、私もそうだが、大通りに面した店舗で働く者としては、やはり客が来なくなるのではないかと心配だ。
だとすれば、このようにしたらいいじゃないか、という次の方策を考え提案していくことが事業を進めるうえでは必要になってくる。
ぜひ、こうした阻害要因を把握したいと思う。

委 員 餃子祭りをやってみて、あれだけのお客様が県外から押しかけるさまに、だんだんと商業者の目が外に向いてきている。
今回の議論に参加させていただき、今まで私たちがやってきたことはこういうことなんだな、とわかってきた。
都市観光の振興は、いいことだと思う。

ぜひ、行政トップのリーダーシップを望みたい。みんなが思い描いた絵を実現するところまでやってみたいと思う。

座 長 長時間に渡る協議ありがとうございました。

事務局 次回日程は、1 月 8 日 午前 10 時からとします。

以上の協議を経て会議を終了した。